

# 「未来社会での幸せな生き方を探ろう」

コース・専攻 : 国際交流・協力コース

グループ名 : ドラえもんワールド探検隊

メンバー : 稲積 義則、金子 順子、高 徳美、永田 智子、濱野 眞己子、平田 洋子、宮本 比佐志

## ＜趣旨・目的＞

私たちのグループは、55年ぶりに開催された大阪・関西万博で、もう一度、「ワクワク感」「ドキドキ感」を味わい、楽しみたい！という思いで7人が集った。

万博は、「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマで開催され、AI やロボットなどの技術進歩に基づいた未来社会の提案や展示・体験できる施設が設置されている。さらに、テーマの「いのち輝く」とは、「幸せな生き方」でもあることから、万博を楽しんで学習するために、グループ学習のテーマを「未来社会での幸せな生き方を探ろう」とした。また、チーム名は、未来社会と聞いて真っ先に思い浮かぶのが、ドラえもんの世界であることから、「ドラえもんワールド探検隊」とした。



万博会場東ゲート ミヤクミヤク像前にて

## ＜グループ学習内容＞

次の手順で進め、フィールドワークとして、未来社会を調査するために「大阪・関西万博」、幸せな生き方を体感するために「世界で最も幸福度の高いフィンランド」「国内で最も幸福度の高い沖縄」をそれぞれ探検した。

ステップ 1 : 未来社会はどんな社会？・・・大阪・関西万博探検に基づく未来社会調査

ステップ 2 : 幸せな生き方とは？・・・フィンランド、沖縄探検に基づく幸せな生き方の調査

ステップ 3 : 未来社会での幸せな生き方とは？・・・ステップ 1、2 の結果に基づく考察

## ＜グループ学習結果＞

- (1)万博で、AI やロボット技術が進んだ明るく便利な未来を体験し、展示や体験により未来社会の最新技術に触れることができました。万博探検を踏まえて未来社会としては、2050年代を想定し、「AI に代表される技術開発が加速し、活用され、人間の知能を超える AI やロボットなどが社会インフラや日々の生活の中に溶け込んでいる社会」と捉えた。これは、「ドラえもんが身近にいる社会」が実現した未来社会と言え、健康や介護などの身近な生活シーンで、AI やロボットと暮らす未来社会の姿を想像した。
- (2)フィンランドで、ヘルシンキ市街、ムーミン美術館やムーミンワールドなどを探検、沖縄では、那覇市街や戦争遺跡を含む観光地などを探検し、日常の幸せな生き方を体感することができた。両地域の幸福度の高い理由に関する共通的な特徴は、「豊かな自然」を背景に、「相互扶助や社会制度への信頼感と安心感」、そして「精神的なゆとりと選択の自由」というところにある。これらは、他の地域にも存在する特徴であり、幸福度を高める両地域特有の側面が他にあるのではないかと考えた。フィンランドは、スウェーデンとソ連に占領された時代があり、その経験から平和の象徴であるムーミンの物語が描かれた。沖縄は、国内で唯一、戦場となり占領された地域で、その悲惨な経験が戦争遺跡として保存・展示され、平和教育に反映されている。これらから「平和に対する強いこだわり」が感じられ、これが幸福度を高める側面となっていると考えた。
- (3)未来社会に対し、万博では、明るく便利な姿が描かれ、グループ員7人の未来社会に対する主観的な幸福度調査でも、AI やロボットなどの活用で便利な生活になり、幸福度があがるとの評価であった。一方で、具体的な未来社会を調査してゆくうちに、人間の知能を超える AI が登場してくることにに関して、「人間の脅威となるのではないか(人間社会の安心・安全を脅かす存在になるのでは)?」や「人との関わりが希薄になるのでは?」など、多くの心配な点に気付いた。
- (4)現在、AI やロボットはすさまじい勢いで開発が進み、ドラえもんがいる未来はすぐそこに来ている。人間にとって安心・安全な AI にするために、「人としての倫理観の学習」や「戦争の道具に使われない歯止め」などを考慮した開発や使い方とする必要がある。さらに、ムーミンたちの生き方、即ち、AI などの技術の進化をありのまま受け入れながら、自分たちのペースで、そして人間関係や自然といった「普遍的なつながり」を大切にすることが幸せに生きるために重要である。加えて、フィンランドや沖縄の幸福度を高める側面であった「平和であること」が未来社会で幸せに生きるために大切であると考えた。